

2016年度 小学校 学校評価の報告

2017年3月21日

「学校教育法」「学校教育法施行細則」に基づき、2016年度に実施した「学校自己評価」報告を致します。

(1) 報告までの概要

前年度の結果をふまえて内容の再検討を行い、「小学校自己評価」を作成した。調査対象は学院の小学校の教職員（非常勤講師は除く）とし、12月に実施、1月から集計にかかった。

(2) 評価項目と評価方法

I：評価項目

「学校運営」「教育内容」「生活指導支援」「教員研修・資質向上」の4つの分類とし、それぞれに評価項目と観点を設けて実施した。41項目からなる。

II：評価方法

4段階の評価を行った。

- | | |
|--------------|---------------|
| A：よくあてはまる | B：ややあてはまる |
| C：あまりあてはまらない | D：まったくあてはまらない |

(3) 2016年度小学校自己評価報告

[小学校自己評価アンケート参照](#)

(4) 重点目標に対する課題と評価

昨年度と比べ改善が見られた項目は「教員の研修・資質向上」である。今年度は、2020年度新学習指導要領を視野に、全職員が研究授業を行い授業力の向上に努めてきた。次年度は、基礎学力の定着に加え、探究型の授業を進める中で、児童一人ひとりの学びを深め、更なる学力の向上をはかりたい。また、個に応じた学習支援の方法を工夫し、「一人ひとりを大切にした教育」を一層推進するとともに、縦割り活動等、児童相互の関わりを大切に「あったか教育」の実践を継続して行う。

(5) 評価の概要

2015年度と比べて	A + B = %	
私学の独自性	1 建学の精神 . . . 100 (%)	91 (2015年度)
	2 愛校心 . . . 100	91
	3 宗教教育 . . . 71	100
	4 家庭との連携 . . . 100	77
教育課程	5 教育計画 . . . 100	90
教員連携間連携	6 教員間連携 . . . 90	86
	7 会議の有効性 . . . 57	67
財務関係	8 財務に関する 意識と財務状況 . . . 86	81
	情報公開	9 ホームページの 活用状況 . . . 100
10 授業公開 状況 . . . 86		95
危機管理		11 役割分担 . . . 86
	12 危機管理 対応状況 . . . 81	77
開かれた		
学校づくり	13 地域交流 . . . 33	34
広報活動	14 学校案内 入試説明会 . . . 86	/
	カトリック教育	15 心の教育 . . . 90
人権教育	16 研究体制 . . . 33	33

	17 教育体制 . . . 81	43
	18 いじめ防止対策 . . . 71	/
	19 児童支援対策 . . . 10	/
情報教育	20 情報能力育成 . . . 90	/
	21 情報モラル育成 . . . 95	81
環境教育	22 環境問題意識向上 . . . 86	71
	23 実践的態度の育成 . . . 95	95
教科指導	24 理解度の把握 . . . 100	100
	25 能力の伸長 . . . 81	86
	26 教育機器の利用 . . . 86	/
学校行事	27 学校行事 . . . 100	100
国際教育	28 国際教育の推進 . . . 48	57
特別活動	29 クラブ活動 . . . 100	100
	30 児童会委員会活動 . . . 72	58
読書指導	31 読書推進 . . . 90	86
生活指導	32 指導方針の一貫性と 生活指導 . . . 95	91
児童支援	33 学習 . . . 76	81
	34 進路 . . . 33	/
	35 保健衛生 . . . 100	/
教員研修	36 教員の資質向上 . . . 90	57
	37 教員の資質向上 . . . 95	100
	38 校内研修 . . . 81	53
	39 初任者のサポート	

状況	43	48
40 校外研修 . . .	76	29
41 研修成果の共有 . . .	90	38

(4) 所見

学校運営に関して

建学の精神を教職員・児童・保護者に浸透させるために、

- ・女子教育、少人数制の良さを広く知らせる手段、学校案内・入試説明会・私学展を始め、児童合唱団・各種作品募集等を積極的に取り入れている。
- ・宗教の授業や宗教行事等で、信愛の歴史や創立者の心にふれる機会を多くもっている。
- ・信愛教育の原点に戻り、今後の教育を推し進める。
- ・教職員は月1回、聖書・創立者の著書を輪読する。

愛校心を教職員・保護者・在校生・卒業生がもつために、

- ・卒業生のネットワークを活用する。

宗教教育を学ぶために、

- ・年間計画のもと、全職員研修会を継続している。

家庭との連携を図るために、

- ・各学期末に行う個別懇談や学年末に行う学級懇談で、信愛教育を理解してもらおう。
- ・保護者対象の公開講座等を開き、「信愛の心」を知り、協力をいただく。

教育課程を徹底化させるために

- ・年間を通じた教育計画を各教科別にたて、6年間の目標をもった指導を行う。

教員間連携をはかるために、

- ・相互理解のもと、信頼関係を築き教育活動を行うために、全員の研究授業を実施する。専科の授業も積極的に参観し、教員間のコミュニケーションを図る。

ホームページの活用状況について、

- ・教育の方針、信愛教育の特徴、児童の様子等がもっとわかるように更新を定期的に行う。

授業公開をオープンに行い、保護者の理解と協力を得るために、

- ・保護者には、いつでも参観できる体制を整えている。
- ・オープンスクールの内容の充実や今年度は保護者の体験教室を実施した。

危機管理マニュアルのもと、警察消防との連携を図りながら安全対策を行うために、

- ・教職員対象の訓練を毎年行う。
- ・児童が在籍している時の不審者対策訓練を行う。
- ・学院危機管理委員会の実効性ある対策を行う。

地域交流の活性化を図るために、

- ・地域や地域の方との交流は、児童合唱団の老人ホーム訪問やクリスマスのイベントなど、恒例となっている行事があるが、まだまだ充分だとはいえない。安全防犯面に留意し、開かれた学校として、地域とのつながりを大切に積極的な交流を図りたい。

教育内容に関して

人権尊重、支援を必要とする児童に対する研究体制組織を確立するために、

- ・校内研修会を設置し、実践する。
- ・外部講師を招へいし、研修する。

情報発信に伴う責任とモラル面に留意するために、

- ・文章表現、品位、服装、言葉遣いの指導を教職員も含め徹底する。

環境教育の実践的態度の育成を図るために、

- ・校内美化の指導を適宜行う。
- ・施設、設備を大切に使うことの指導や清掃、美化の大切さを教える指導を生活指導部を中心に行っている。

児童の理解度に合わせた学習指導を行うために、

- ・算数以外の教科もT Tの導入を図っている。
- ・アクティブラーニング（探究型学習）の実践を図る。

委員会やクラブ活動に積極的にかかわる児童を育成するために、

- ・主体的に関われるように、活動内容を充実する。
- ・奉仕活動の機会を増やす。
- ・各種コンクールや催しなどに積極的に参加している。今後はスポーツ分野にも広げていきたい。

生活指導支援に関して

個別指導の充実を図るために、

- ・全学年、算数科でT Tの指導を導入を取り入れている。
- ・週3回（火・木・金）の放課後、（15：30～16：30）を使い、個別指導にあたっている。
- ・今後、支援が必要な児童には、主要教科（国語や算数）のT T導入を徹底できるとよい。

教員研修・資質向上について

教員間で、授業内容の評価と意見交換を活性化し、わかりやすい学習指導をするために、

- ・教材研究の時間を確保する。
- ・研究授業を全職員が年 1 回行い、授業反省会を行うことで授業の向上をめざす。

初任者や経験の浅い教員のサポート体制を整えるために、

- ・新任時に限らず、指導教員をつけるなど、サポート体制を確立する。

研修成果の共有化を図るために、

- ・研修会や研究会に参加した成果を全教員で共有するために報告会を定期的に行っている。

その他

- ・カトリック精神にもとづいた人生観をもたせ、女性としての豊かな心を養うとともに、物事を正しく判断して行動し、進んで国際社会に奉仕できる明朗で健康な人を育てることをめざす。